

〈熊本支部例会事前抄録〉

日時：2018年8月28日（火）20：30～

会場：添島歯科クリニック研修室

－ 一般講演抄録2 －

診査・診断の重要性と経過症例の再評価

添島正和（医） 平和会 添島歯科クリニック 〒862-0952 熊本市京塚本町7-7

（略歴）1972年 東京歯科大学卒業

1975年 熊本市にて添島歯科クリニック開設

2009年 歯学博士修得

2010年～2013年 福岡歯科大学口腔インプラント学分野臨床教授

（所属団体）

日本臨床歯科医学会（熊本支部）指導医

日本顎咬合学会（九州支部）指導医

日本口腔インプラント学会（九州支部）指導医

日本歯周病学会（九州支部）専門医

日本臨床歯周病学会（九州支部）指導医

（抄録）

歯科医師と患者さん双方が目指す歯科治療の究極のゴールは、機能・審美性を兼ね備えた健康な口腔を生涯に渡って維持し、それが結果的に患者さんの全身の健康長寿に寄与することである。

しかしながら、治療終了後の経過観察を行っていくなかで、トラブルや予測できない変化に遭遇し、自分が思い描いていた理想とする治療ゴールとは程遠い治療結果を数多く経験してきた。

一方、術後長期間一度の来院もないまま、良好な予後をたどった症例も中には存在することも事実である。

いったいその差は患者さんの個体差によるものなのか？それとも術者のスキルによるものであろうか？

1975年の開業当初から、曲がりなりにも臨床記録をとる習慣を身につけていたために、長期症例を見直し、治療の妥当性を再評価する機会が増えてきた。

しかし、類似症例があったとしても、厳密に言えば一つとして同じ症例はないため、個々の症例に応じたきめ細やかなアプローチが求められる。

今回、過去に当院で行った症例を提示し、治療に対する診査・診断の重要性と、臨床で問われる歯科医師としての姿勢について私見を述べたい。